

## 令和4年度 学校経営報告書（自己評価）【全日制】

学校番号	40	学校名	静岡県立科学技術高等学校	校長名	小野 聡
------	----	-----	--------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況（昨年度）	評価	成果と課題
ア	日常の学習習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に主体的に取り組んでいると答える生徒90%以上</li> <li>授業の内容がよく分かると回答する生徒90%以上</li> <li>教員は授業を大切にするとともに、分かりやすい授業を行おうと努めていると答える保護者80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>85.0% (84.3%)</li> <li>81.3% (84.6%)</li> <li>71.8% (72.9%)</li> </ul>	B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は、コロナ禍で制約を受けながらも、85%と目標の90%には届かなかったが、学習生活の継続に努めた。また、生徒が自ら計画的な学習を行い、PDCAサイクルに基づく意識向上を図っていく。</li> <li>教員は、一人一台端末（Chromebook）などICTを活用した自宅学習や教材提供など授業改善に取り組み、分かりやすい授業を行うよう努めていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>1日の授業、課外活動、家庭学習の合計時間が10時間達成50%以上。</li> <li>学習と部活動等の課外活動が両立できていると答える生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体 44.9% (47.0%)</li> <li>全体 59.7% (67.0%)</li> </ul>	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業と放課後の活動の相互作用により、更に充実した学校生活を送れるよう、意識を高揚させる。</li> <li>2年生は53%が10時間達成しており、部活動でも学校の中心となり活動している。</li> <li>3年生の中にはインターハイ終了後も部活動を続け、学習との両立を心掛けている生徒もいる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教養力テストの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定通り年12回実施することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス全体で取り組み、家庭学習の定着にもつながっている。</li> <li>採点業務改善のため、マークシート採点方式やWeb採点方式を実施した。</li> </ul>
	個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>手帳等を活用し、生活習慣を整え、学習時間やスケジュールの管理ができている生徒60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体 35.3% (26.6%)</li> <li>1年 34.7% (25.3%)</li> <li>2年 24.6% (23.2%)</li> <li>3年 44.5% (31.5%)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体としては低いが、3年生が最も高いため、3年間を見通した指導体制を整えていく。</li> <li>集会やテスト前には、手帳の活用を促すことを継続して行っていく。</li> <li>手帳やスケジュール管理等については、一人一台端末の活用についても検討していく。</li> </ul>

様式第3号

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来に対する夢や希望を持っていると答える生徒80%以上</li> <li>・信頼できる先生がいると答える生徒80%以上</li> <li>・きめ細やかで適切な進路指導がなされていると答える保護者80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体 71.2% (70.6%) 1年 55.6% (64.1%) 2年 66.9% (69.6%) 3年 87.3% (78.0%)</li> <li>・全体 78.7% (76.2%) 1年 74.3% (76.6%) 2年 77.8% (74.8%) 3年 82.9% (77.1%)</li> <li>・全体 79.3% (78.4%) 1年 71.5% (69.0%) 2年 74.7% (77.8%) 3年 89.0% (87.9%)</li> </ul>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来に夢や希望を持っている生徒の割合は学年が上がるごとに増加しており、「本校に進学して良かった。」「学校が楽しいと感じる。」などについても肯定的な回答をする生徒の割合が高い。分掌との足並みも揃っており、3年間を見通した指導体制は良好に構築、継続できている。</li> <li>・進路課や学年、教科等が連携し、全職員が関わる進路指導体制の確立ができた。</li> <li>・週休日や長期休業等を活用した課外補講を継続することで、最後まで進路目標を見失うことなく指導が継続できた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学合格者70人以上</li> <li>・就職内定率100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学合格者 38人</li> <li>・就職内定率 100%</li> </ul> <p>※令和5年1月31日時点</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、教科等が連携し進路指導を行った。また、全職員で志望理由書や面接等の指導を行った。</li> <li>・生徒、保護者ともに進路指導体制や進路情報提供に関して、高い評価を得ることができた。</li> <li>・今後も学校全体で進路指導が効率よく行われていくように、体制づくりについて検討していく。</li> </ul>
部活動を効率的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に参加している生徒80%以上</li> <li>・学校が楽しいと答える生徒80%以上</li> <li>・部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができたと答える教員90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・76.7% (77.6%)</li> <li>・85.5% (84.0%)</li> <li>・84.3% (75.4%)</li> </ul>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動ガイドラインを踏まえ、合理的・効果的な活動を実践し、全国大会、東海大会出場をはじめ県大会入賞などの成果を挙げた部活動もあった。また部活と勉強の両立ができるよう工夫を凝らした取り組みをしている部活動もあった。生徒自らが積極的に取り組む姿勢が身につけば更に成果が期待できる。</li> </ul>

様式第3号

	<p>生徒主体の活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が企画した事業の実施年2回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事は生徒が主体的にかかわられるように企画されている。83.8% (83.4%)</li> <li>委員会や当番の仕事がきちりできている。93.2% (89.0%)</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(生徒課) 体育祭や文化祭では、生徒会が中心となり企画から運営までを行い、生徒の成長を促す機会、団結力の高揚や人間関係を構築する機会となった。行事における工夫を凝らした取り組みは、生徒全体に活力を与え、学校の活性化に繋がった。今後は委員会活動などでの自主的な取り組みなども期待したい。</li> </ul>
<p>イ</p>	<p>探究的な教育活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究への主体的な取組を促すとともに、STEAM 教育等の教科横断的な取組を実践する。</li> </ul>	<p>【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究では「水力発電機の発電効率の向上について」など6テーマの発表を行った。</li> </ul> <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究では「六足歩行ロボットの製作」など12テーマの発表を行った。</li> </ul> <p>【電気工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工研 生徒研究 論文投稿</li> <li>課題研究では7テーマの発表を行った。</li> </ul> <p>【電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究はマイコンカーの製作</li> </ul> <p>【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静岡大学から講師を招き、2年生に対して出張授業を実施</li> </ul> <p>【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学等と連携し、講演会等の実施。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蒼穹祭では、課題研究作品展示、動画による中間報告などを行った。1、2年生で実習作品を準備し、その作品を来場者に配布してPR活動を行った。</li> </ul> <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製作活動前の設計や関係知識の研究の時間が不足している。毎年新しいテーマに取り組みなくとも2~3年で製作物を完成させる方が、生徒及び教員とも力が着くと考えられる。</li> </ul> <p>【電気工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>題目「LEDを利用した水耕栽培装置の製作」</li> <li>防災やアミューズメントを意識したものづくりを行い、楽しみながら生徒の工学に対するスキルが向上した。</li> </ul> <p>【電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県大会、東海大会で優勝することができた。全国大会出場。</li> </ul> <p>【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後のITの方向性を提示していただき、生徒の進路意識の向上が見られた。</li> </ul> <p>【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公官庁や各種協会と連携し、出前授業等を実施した。対象学年や時期については検討する必要がある。</li> </ul>

		<p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究では6テーマについて生徒が主体的に研究活動を行い、技能・技術、研究を深めることができた。</li> </ul> <p>【物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業2校（静岡県立大学と静岡大学）</li> </ul> <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症への対策を十分に施し、オンラインと対面の出張授業等を適切に実施できた。</li> </ul>		<p>【都市基盤】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのテーマに分かれ意欲的に学習に取り組んだ。その成果を防災訓練、学校祭、課題研究発表等で広く発表することができた。</li> </ul> <p>【物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業だけでなく企業や大学へ訪問を検討する。出前授業を通して大学進学への意識を高めることができた。</li> </ul> <p>【理数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究では、教科や学科を横断した取り組みが増えている。</li> </ul>
<p>専門分野の能力を向上させるとともに、必要な資質を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞</li> <li>・国家資格等の高度な資格に挑戦させ、受験者数及び合格者数の増加。</li> </ul>	<p>【機械工学】</p> <p>前期技能検定 機械検査3名合格。後期技能検定（R5/3/18発表）3級機械検査11名受験、3級テクニカルイラストレーションCAD18名受験。JIS 溶接評価試験基本級A-2F4名合格。ものづくりマイスター、静岡県講師派遣事業を活用して技術向上。</p> <p>【ロボット工学】</p> <p>高校生ロボット競技大会4位入賞。若年者ものづくり大会機械CAD部門出場。静岡県ものづくり競技大会シーケンス制御部門・機械CAD部門参加。第二種電気工事士27名受験。技能検定電気機器組立て（シーケンス制御）16名受験（結果発表3月19日）</p>	A	<p>【機械工学】若年者ものづくり競技大会旋盤、フライス部門出場、静岡県溶接アートコンテスト出展。その他の大会に参加を促し、活躍することができた。旋盤フライス盤競技では若年者ものづくり競技大会で敢闘賞を取ることができた。練習や製作には課題研究・学科研究部活動を活用して指導できた。今後も継続して指導していく。</p> <p>【ロボット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒独自の発想からロボットを製作し、創造性、問題解決能力を養うことができた。</li> <li>・指導教員の人数の確保と勤務時間外の指導が課題。</li> <li>・情報システム科との連携で電気工事講習を実施。</li> <li>・技能検定は指導が行き届きやすく、合格率にも反映できると考えられる。</li> <li>・指導する担当が固定化しており、担当の負担が大きい。教員数の確保、朝、放課後等勤務時間外の指導となるので、教員のボランティアに頼っている。</li> </ul>

			<p><b>【電気工学】</b>          第三種電気主任技術者（電験三種）科目合格者2名 理論、機械。第一種電気工事士 筆記合格32名、技能合格23名（3年:12名、2年:11名）</p> <p><b>【電子工学科】</b>          静岡県高校生ロボット競技大会参加。ジャパンマイコンカーラリー参加</p> <p><b>【情報システム】</b>          若年者ものづくり全国大会出場。IPA 主催各種大会への参加</p> <p><b>【建築デザイン】</b>          設計、ものづくり等対外競技入賞20名。今後結果発表があるコンペがある。国家資格合格者96%。技能士は今後14名が挑戦する。</p> <p><b>【都市基盤工学】</b>          2級土木施工管理技術検定試験 2年生の合格率94%（34/36）、3年生の最終合格率95%（38/40）・2級造園施工管理技術検定試験 3年生の合格率81%（27/33）</p>	<p><b>【電気工学】</b>          ・第一種電気工事士の合格者は、23名。（昨年より、筆記試験7名増、技能試験1名減）          ・放課後補講や動画配信による補講を実施。          ・電験三種補講を月曜日放課後に実施し、グーグルクラスルームによる動画配信も行った。          ・電線の材料代高騰、電験三種の合格者輩出が課題。</p> <p><b>【電子工学科】</b>          ・東海大会に Basic クラス11台 Camera クラス2台参加し、Basic クラスで優勝できた。4台完走はできなかった。県大会では、Basic クラス、Camera クラスとともに優勝することができた。</p> <p><b>【情報システム】</b>          ・各種競技全国大会は難度があがり、入賞が難しくなっている。          ・国家資格受験では、CBT 受験が多くなり、受験者数の把握が難しくなっている。合格が今後の進路・人生に生きてくる可能性を理解させる必要がある。</p> <p><b>【建築デザイン】</b>          ・建築甲子園全国ベスト8、高校生ものづくりコンテスト東海大会3位など難関対外競技での入賞があった。働き方改革を踏まえた指導（時間外活動の超過）が課題。          ・高度な資格の受験者が増加し、28名中27名が合格。過去最多の合格者数となった。（技能士は除く）</p> <p><b>【都市基盤工学】</b> 3年生において高度資格となる国家資格を複数持つ生徒を多く輩出した。          国家資格2つ 27人          3年生について、ジュニアマイスターゴールド8名、シルバー18名が資格を取得した。</p>
--	--	--	---	---

			<p><b>【物質工学】</b> 1年生危険物取扱者試験乙種全類四類に挑戦した生徒58% (23/40人) 合格率22% (5人)。2年生1名が危険物取扱者試験甲種を取得。 2年生2名が毒物劇物取扱者を取得。静岡県ものづくり競技大会化学分析部門2名出場。 3年生危険物全類取得者3名。ものづくり競技大会化学分析部門東海大会出場。</p> <p><b>【理数】</b> 化学グランプリ (6名) や科学の甲子園 (38名) 参加。</p>		<p><b>【物質工学】</b> ・化学・電子に関する資格の紹介や概要説明することで、専門教科の資格取得・大会参加について指導することができた。 資格取得に向けた講義時間の確保、対策方法の再検討をする。 ・資格取得に対して教員数減による指導者と指導時間の確保が困難。</p> <p><b>【理数】</b> 今後、参加者を増やしていきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学科で技術者倫理に関する指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルや公害問題等、過去の事例及び未来への注意点等を、座学と実習を通して指導した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業の技術が、世の中でどのように利用されているのか、学習した内容が世の中でどのように役に立っているのかを実感を持たせることにより、誤った方向に技術が使われないように指導を行っていく。</li> </ul>
ウ	<p><b>グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一層充実した研修ができるように検討する。</li> <li>・英語検定等の受験者数の増加 (CEFR B1 及び A2 レベルの生徒数の増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ渦であっても、希望者による語学研修を計画し、実施した。</li> <li>・羅等高校と連絡を取り合った。</li> <li>・進学、就職を問わず全生徒に英検取得の必要性を周知し、受験を促した。</li> </ul>	A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語研修プログラムを企画した。募集人数を昨年度より増やし、参加者は31名であった。来年度も募集PRを工夫し、多くの参加者を募りたい。</li> <li>・令和5年度にオンライン交流を実施予定。</li> <li>・英検の受験者数は、昨年度とほぼ同じであった。CBTによる個人受検が増加する傾向にあるので、従来型の英検受験者は減少する可能性がある。</li> </ul>
	<p>持続可能な社会の一員としての素養を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶がしっかりとできていると答える生徒95%以上</li> <li>・身だしなみがしっかりとできていると答える生徒95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体93.7% (94.5%)</li> <li>・全体94.2% (96.9%)</li> </ul>	A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶・身だしなみ・交通指導や巡視活動や感染症対策など学校全体で取り組み、規範意識の高揚や生徒の成長に繋げることができた。職員間の情報交換を密にし諸問題にも早期に対応することができ、全体としては落ち着いた状況であった。時代と共に社会</li> </ul>

様式第3号

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォン・携帯電話は適切に利用していると答える生徒80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体77.6% (81.1%)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>のルールや校則が変更されても、それぞれに柔軟に対応できるよう規範意識を育成していきたい。</li> <li>・スマホの不適切な使用についてもその都度適切な指導を行うことで、トラブルが連鎖的に拡大することなく終息できた。クロームブックの使い方についても研究していきたい。</li> <li>・頭髪服装検査は昨年度よりも回数を減らしたが、特別な指導を要する生徒はいなかった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人当たりの年平均図書貸出冊数 2冊以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.4冊 (1.5冊) 貸し出し冊数は現在延べ2,444冊 (1,617冊) (1月10日現在)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書課の活動だけでなく、国語科で読書感想文の書き方を説明する際に図書館を利用したり、長期休み前に本を借りるよう図書館で授業を行ったりしたことが大きいと思う。</li> <li>・6月と11月には「読書キャンペーン」を行い、生徒の図書館利用の促進を図った。その他、図書館NEWSや新着図書紹介を発行するなど、利用促進を図り、生徒を図書室に呼び込むきっかけづくりを行っている。小論文の必要な生徒が多数いるため、小論文コーナーはさらに充実させたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館来館者数延べ10,000人以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7,268人 (5,087人) (1月10日現在)</li> </ul>	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ、保育体験実習に参加した生徒の満足度90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ 98.0% (94.3%) (参加生徒118名)</li> <li>・保育体験 95.0% (100.0%) (参加生徒11名)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でありながら、企業や保育園の協力を得て実施することができた。参加した生徒の進路に対する意識付けに効果があった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源の大切さを意識させるとともに3Sの意味を理解し、積極的に取り組んでいると答える生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体 60.6% (71.2%)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や課題研究では、資源の大切さを意識させるとともに、3S活動を推進することができた。また、実習や課題研究では大きな怪我がなく作業を行い、終了後の清掃を徹底することができた。</li> <li>・安全標語や工作機械の注意事項を、実習室に掲示した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルールの遵守に心掛けていると答える生徒90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体93.8% (90.4%) 目標を上回った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通街頭指導を計画通りに実施した。</li> </ul>

様式第3号

エ	カリキュラム・マネジメントを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい教育課程の編成</li> <li>・令和5年度から学校運営協議会制度を導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程に対応いた授業展開を開始した。</li> <li>・令和5年度は、導入しないこととした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を実施しながら、教員が旧課程と新課程の差異を理解し、生徒と社会の実状に合わせた授業展開を実施していく。</li> <li>・令和6年度導入に向けて検討していく。</li> </ul>
	特別支援教育体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談だよりを、月1回以上発行</li> <li>・1年生全員を対象としたカウンセリングを実施</li> <li>・個別の指導計画及び支援計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向けに月1回、職員用に年2回発行できた。</li> <li>・1年生全員実施を対象として、1分間カウンセリングを実施した。</li> <li>・支援計画・指導計画を多くの先生方と保護者と共に作成することができた。</li> </ul>	A A A	
エ	教職員の資質・能力の向上を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・91.3% (92.9%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修会等を通して、教職員の資質・能力の向上を支援することができた。</li> <li>・今後は、授業参観の機会を多く設け、積極的に呼びかけをするなど参加者が増えるよう工夫する必要がある。</li> <li>・授業力自己診断を実施した教員90%以上には及ばなかったが、多様な測定ツールを用いてPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員90%は達成できた。</li> <li>・評価方法の変更は周知できた。今後は成績処理システムの改修に伴う処理手続きの操作周知が課題となる。</li> <li>・今後も、ICT機器の活用の仕方を教員間で共有していき、一人一台端末の活用について検討していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観した教員70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・67.1% (73.2%)</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力自己診断を実施した教員90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・78.6% (77.5%)</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な測定ツールを用いてPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員90%</li> <li>・観点別評価を適切に実施していると答える教員60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・92.8% (93.1%)</li> <li>・75.7% (80.0%)</li> </ul>	A A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に授業でICT機器を活用した教員60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・60.0% (64.8%)</li> </ul>	A	
エ	教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修を随時実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教委からの通知（コンプライアンス通信等）にあわせて随時実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のメンタルヘルス及びコンプライアンスの徹底について、他人事ではなく自分事として捉えることができるように、声掛けや研修を継続して行っていく。</li> </ul>



様式第3号

学校教育活動に関する広報を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを月15回以上更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新回数352回 (259回) 月平均35.2回 (25.9回) (R4年4月～R5年1月)</li> <li>・校長ブログ1,653回</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内掲示板や個人的な情報網を駆使して、様々な出来事や情報をHPに掲載できた。</li> <li>・あらゆる行事に関してプレスリリースし、テレビや地域新聞、業界紙へ情報提供を行い、本校生の活躍や本校の現状を紙面等に取り上げてもらうことが出来た。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり教室の実施や校外でのイベント等への参加を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ロボット工学】</li> <li>・中学生ロボット教室の開催参加者10名(中3:8名、中2:1名、中1:1名)</li> <li>【電気工学】【電子工学科】</li> <li>・校外イベントに参加し、文化祭や1日体験入学、来客者対応など、積極的に広報活動を行った。</li> </ul> <p>【理数】中学生を対象とした科学教室を8月、9月、11月に計画し、3回実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ロボット工学】</li> <li>・3年ぶりに開催することができた。学科のPRとともにロボットを動かす仕組みを伝えられた。</li> <li>・中学1,2年生に多く参加してもらいたいと感じた。</li> <li>【電気工学】</li> <li>・下記イベントに参加することにより、電気工学科の特色を十分に広報することができた。</li> <li>①県武道館サンクスデー(藤枝市)</li> <li>②文化祭、1日体験入学での製作物作成・展示</li> <li>③ホームページでの広報(4回実施)</li> <li>【電子工学科】</li> <li>・夏季休業中に、地元の小中学生対象にマイコンカーの講習会を実施した。また、県武道館におけるイベントへ参加をおこなった。</li> <li>【理数】中学生の参加者は、60名であった。(定員60名)、感染症への対策も継続する。</li> </ul>	A
校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が校務で共有サーバを使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイルサーバ等の共有機器は、問題なく運用できている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる利便性とセキュリティ確保の観点からバランスの取れた運用方法を検討したい。また、迅速な障害復旧できる体制を整える必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善を心掛けたとする教員50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・94.3% (23.2%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員勤務時間管理システムの導入から約3年が経過し、時間外勤務の見える化などにより、業務改善に対する意識が高まってきたと思われる。</li> <li>・「スクラップ&amp;ビルド」により、業務の効率化、多忙化解消及び教育の質の向上を図り、ICTの効果的な活用についても検討していく。</li> </ul>

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の点検の日を設け P F I 担当者との点検月 1 回以上実施</li> <li>・施設・設備の整備、省エネ・省資源への取組を進め、コスト意識を醸成し、消費電力量を削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月 1 回の点検を行い、危険箇所や不良個所の情報共有及び改修することができた。</li> <li>・夏季（6～9月）の使用電力量が前年度比で 11%増加した。</li> </ul>	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検及び小規模な改修は速やかに対応できた。今後も P F I 事業者と連携を密にして、危険箇所の解消に努めていく。ただし、大規模な改修については、P F I 事業者が施行するか、学校が施行するかの判断を県教委と相談して、迅速に対応していく。</li> <li>・コロナ禍における猛暑により、夏季の空調の節電は厳しい状況。こまめな電源OFF等、効率的な使用を引き続き呼びかけていく必要がある。</li> </ul>
--	--	--	---	-------------------	--